

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.256

2014年9月

名古屋大学オープンキャンパス2014を開催



目次

●ニュース

- 名古屋大学オープンキャンパス2014を開催 3
- アジアサテライトキャンパス学院看板上掲式を挙行 4
- 濱口総長が企画展「戦争と大学」を見学 4
- 若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催 5
- 産業技術総合研究所との技術交流会を開催 5
- 平成26年度名古屋大学協力会総会・講演会を開催 6
- 名古屋スペースキャンプ2014 NSC-3を開催 6
- 2014 RENKEI 日英航空宇宙工学共同ワークショップを開催 7
- 「博士のキャリアパスシンポジウム」を開催 7
- 第1回国際教育交流業務に関する教職員研修を開催 8

●知の未来へ

- 生物の1日の時間を計りとる仕組み 9
- 中道 範人（トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授）

●知の先端

- 隠れた性質を可視化するーナノ領域分光と統計学の融合ー 10
- 武藤 俊介（エコトピア科学研究所グリーンマテリアル部門教授）

●学生の元気

- 第63回東海地区国立大学体育大会 一男子3位、女子4位一 12

●部局ニュース

- 名古屋 COI 拠点オープンデイ2014を開催 13
- ひらめき☆ときめきサイエンス・先進科学塾@名大番外編を開催 14
- 科研費プロジェクト連続企画「ドイツ語圏の芸術誌の研究」を開催 14
- 化学・生物実験講習会を開催 15
- 平成26年度工学部懇話会を開催 15
- テクノフロンティアセミナー（TEFS）を開催 15
- テクノサイエンスセミナー2014を開催 16
- ミクロの探検隊®を開催 16
- 第55回博物館コンサートを開催 16
- 公開実験講座2014「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」を開催 17

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年7月16日～8月15日 18

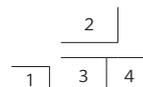
●イベントカレンダー 20

●ちょっと名大史 24

- 名大史における野球と甲子園

名古屋大学オープンキャンパス2014を開催





- 1 名大生相談ブースの様子
- 2 学部紹介の様子
- 3 実習体験の様子
- 4 研究室見学の様子

名古屋大学オープンキャンパス2014が、8月6日(水)から8日(金)の3日間にわたり開催されました。これは、高等学校2年生を中心とした大学進学希望者を対象に、教育・研究における特色の紹介や施設見学等を通じて「名古屋大学で何が学べるか」を紹介し、今後の適切な進路選択をする上での意識を高めてもらうことを目的として、毎年行っているものです。連日の猛暑の中、高校生をはじめとした、多数の参加がありました。

学部企画では、学部長をはじめ、教職員・在学生が一体となり、内容に趣向を凝らした学部説明、模擬講義、施設見学等が行われ、参加者は、教員や在学生と直接懇談して、自分の進路等について詳しく説明を聞き、熱心に質

問やメモを取るなど活気にあふれていました。

全体企画では、教職員による「大学の紹介」、「学生生活あれこれ」、「女性研究者から見た名古屋大学」の講演等が行われたほか、生協学生委員による附属図書館、博物館、野依記念物質科学研究館、赤崎記念研究館、ノーベル賞展示室等の公開施設の見学ツアーを実施しました。また、「名大生との対話コーナー」は、昨年より場所を拡大し、「教科書・参考書の展示コーナー」とともに多くの高校生が相談に訪れました。学生・若手研究者団体NUMAPによる博物館ガイドツアーも好評でした。

いずれの企画も大変多くの参加者が訪れ、活気に満ちあふれていました。

今年度のオープンキャンパス参加者は、3日間を通じて8,907名でした。また、事前申込みができなかった1,927名(保護者等含む)を含め、総勢で10,834名の方々がキャンパスを訪れました。

オープンキャンパス参加者数

8月6日(水)	教育学部	630名
	経済学部	841名
	工学部	1,929名
8月7日(木)	法学部	641名
	医学部(医)	622名
	農学部	773名
8月8日(金)	文学部	782名
	情報文化学部	266名
	理学部	1,519名
	医学部(保)	904名
合計		8,907名

*医学部保健学科のオープンキャンパスは大幸キャンパスで実施しています。



アジアサテライトキャンパス学院看板上掲式を挙行

アジアサテライトキャンパス学院看板上掲式が、8月4日(月)、本部3号館玄関において挙行されました。この上掲式は、本学院の発足及び磯田アジアサテライトキャンパス学院長の着任を記念して行われました。本学院は、「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」の実施を統括するとともに、本学のアジア地域における教育研究活動に貢



看板上掲の様子（左が総長、右が磯田学院長）

献することを目的とした教育研究組織です。このプログラムは、博士号の取得を希望するアジア諸国政府幹部等に対して、現職を離れることなく、主に現地に設置した本学の海外教育拠点において教育を実施する画期的な学位プログラムであり、大学院法学研究科、大学院医学系研究科、大学院生命農学研究科、大学院国際開発研究科が参画しています。今年度は、海外の教育拠点として、カンボジア、ベトナム、モンゴルにサテライトキャンパスを開設し、10月から本格的な教育活動を開始します。

式典では、濱口総長から、アジアのハブを目指す本学のプログラムにかかる熱意が述べられ、新たに着任した磯田学院長に大きな期待が寄せられました。磯田学院長からは、アジア諸国の人材養成を通じたネットワーク形成の意義や今後の活動の展望が述べられました。続いて、カンボジア、ベトナム、モンゴルの各サテライトキャンパスに着任する特任教員、事務補佐員の紹介がありました。当日は晴天の猛暑日でしたが、鮎京理事、渡辺理事、市橋副総長をはじめとする関係役員、各研究科長、その他学内関係者など約60名が集まり、賑やかな式典となりました。

濱口総長が企画展「戦争と大学」を見学

濱口総長は、8月8日(金)、中央図書館ビブリオサロンにおいて、企画展「戦争と大学—1931~1945 名古屋医科大学・名古屋帝国大学」を見学しました。この企画展は、8月1日(金)から31日(日)の間、同館で開催され、鶴舞キャンパスの附属図書館医学部分館において開催された同名の展示会を東山キャンパスで開催したものです。当日は



見学の様子

総長をはじめ、理事などの役員も参加し、堀田慎一郎大学文書資料室特任助教による説明を受けながら、熱心に各展示を観覧していました。

今回、東山キャンパスでの開催にあたり、大学文書資料室と同館医学部分館との共催というかたちで、同室が用意した資料やパネルなどを大幅に補強しての展示となりました。当時から日本の最高学府の1つであった本学と戦争との関わりを明らかにするという基本的なテーマは同じですが、今回はスペースを広くとれることを考慮して、5つのコーナーに分けて展示を再構成しました。

また、企画展初日の8月1日(金)には、報道関係者へ向けての説明会が開催されました。記者やカメラマンなど多くの報道関係者が参加し、蒲生英博同館医学部分館特任専門員と堀田特任助教が概要を一通り解説した後、個々に質問や取材を受けました。本企画展については、後日、テレビをはじめとした各種メディアで報じられました。

若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催

若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーが、オープンキャンパス2014開催中の、8月6日(水)、豊田講堂ギャラリー及び第1会議室において開催されました。フォーラムは、山崎真理子生命農学研究科准教授及び田嶋聡美工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター特任准教授の2名による特別講演で始まり



記念撮影

ました。講演に引き続き、女子中高生に対してポスター発表の聴き方、見方のポイントを伝えるポスターガイダンスが行われた後、学内の若手女性研究者35名によるポスターセッションが行われました。

同時開催のセミナーには、愛知、岐阜、三重の東海3県を中心に、女子中高生とその保護者や教員など多くの方の来場があり、来場者の多くは、フォーラムのポスターセッションにも参加しました。最後に、ポスターセッションに対する投票が、発表者を除く女子中高生や、理系部局の研究科長等の参加者によって行われ、理学研究科博士課程前期課程1年の前田果歩さん、柴田万織さん、情報科学研究科博士課程前期課程2年の宮地美希さん、田嶋特任准教授の4名に藤井理事から総長賞が授与されました。

この催しは、若手女性研究者の研究発表・交流を目的とし、同時に理系分野に興味のある女子中高生へのエンカレッジの場として、理系分野で活躍中の女性研究者の話を直接聴くことができる機会となっています。また、表彰式終了後には、女性研究者交流会が行われ、参加者は互いに交流を深めていました。

産業技術総合研究所との技術交流会を開催

独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)との技術交流会が、7月18日(金)、産業技術総合研究所中部センター連携会議場において開催されました。この技術交流会は、産総研との連携・協力協定に基づく活動の一環として、平成19年の協定締結から、今回で通算14回目の開催になります。参加者は、産総研・本学関係者あわせて69名のほり



あいさつする松尾副総長

ました。

開催にあたり、松尾副総長から開会あいさつがあり、本学との連携活動は産総研との連携協定機関の中でも、非常に活発であると紹介しました。続いて、今年度の共同調査研究(FS共同研究)提案テーマの紹介が行われました。FS共同研究の開始から8年目を迎えた今年度の募集は、「ものづくり基盤技術を支える先端材料研究」というキーワードで行われました。提案は13件のほり、このうちマッチングが成立した9件について、本学と産総研の研究者がペアを組んで技術交流会で発表が行われ、出席者による投票の結果、3件が採択されるなど内容がより充実した発表会となりました。最後に、田澤真人産業技術総合研究所中部センター所長代理の閉会あいさつにより、技術交流会は盛況の内に閉会しました。

懇親会では、松尾副総長による乾杯の発声後、発表会だけでは時間が足りなかった参加者の間で意見交換が活発に行われました。得意分野の技術・研究を互いに補完しながら、両機関間の共同研究等における連携強化が期待される技術交流会となりました。

平成26年度名古屋大学協力会総会・講演会を開催

平成26年度名古屋大学協力会総会・講演会が、7月19日(土)、減災館において開催されました。総会では、名古屋大学協力会会長である松尾副総長による開会あいさつの後、議事進行をもとに、平成25年度事業報告・決算報告及び平成26年度事業計画(案)・予算(案)が承認され、最後に、同会副会長である内山田竹志トヨタ自動車株式会社代表取



講演する竹村教授

締役会長より閉会のあいさつがありました。

講演会では、「迫りくる南海トラフ巨大地震を克服する」をテーマに3件の講演が行われました。最初に、「南海トラフ巨大地震を知る：基礎から最近の科学的知見まで」と題して、鷲谷 威減災連携研究センター教授が、地震の発生メカニズムから最新の研究成果まで、南海トラフ地震に関連する科学的知見を解説しました。次に、「歴史に学ぶ防災論：関東地震と東南海地震」と題し、竹村雅之同センター教授が、元禄地震、濃尾地震、関東大震災の被害、教訓を振り返り、南海トラフ地震への心構えについて講演を行いました。最後に、「減災館を活用し南海トラフ地震の減災対策を進める」と題した講演で、福和同センター長が、東京、大阪と名古屋の地震リスクの違いを解説し、今後、減災館で行う減災研究の取組みを説明しました。

講演会后、今年3月に完成した自家発電・太陽光発電装置、免震構造を備えた減災館の各種地震体感教材及び振動体感システムの見学、建物全体を加振した地震の体感も行われました。

南海トラフ地震に対する時宜を得た講演と減災館見学の関心の高さから、参加者は120名と盛況でした。

名古屋スペースキャンプ2014 NSC-3を開催

名古屋スペースキャンプ2014 NSC-3が、7月29日(火)から8月1日(金)までの4日間開催されました。これは本学と独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携協力協定に基づき、全国から応募した23名の小中学生が参加し、講義や演習、施設見学を通じ、日本の宇宙開発についてさらに理解を深めてもらうことを目的に開催されま



豊田講堂前でのモデルロケット発射実験の様子

した。参加者は名古屋市科学館や三菱重工業株式会社などの中部地区のロケット、宇宙機の研究開発現場の見学、モデルロケットの製作、発射実験などを行い、最前線の天文研究や宇宙開発を体験しました。

本学では、31日(木)の午後から、大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻宇宙物理学研究室(U研)と大学院工学研究科航空宇宙工学専攻の研究室見学を行いました。U研では松本浩典現象解析研究センター准教授と三石郁之理学研究科助教からX線天文学や衛星プロジェクト、観測器について紹介があり、参加者はX線望遠鏡に使われる反射鏡の生産現場を見学しました。工学研究科では大学院生の仙波直樹さん、武藤浩平さん、山田紘平さんの3名から風洞実験や熱制御、次世代ロケット推進器の研究について紹介がありました。夕方からは豊田講堂前広場でモデルロケットの打上げが行われ、参加者は各自作成したロケットの打上げ実験を行いました。最後に、松本准教授から「研究には失敗がつきもの」と参加者に話がありました。

最終日には報告会があり、本学で勉強したいと多くの参加者が話し、宇宙飛行士やロケットエンジンの研究者になりたいといった具体的な夢なども聞かれました。

2014 RENKEI 日英航空宇宙工学共同ワークショップを開催

2014 RENKEI 日英航空宇宙工学共同ワークショップが8月4日(月)から8日(金)まで、本学において開催されました。平成24年3月に、英国の国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルが事務局となり、日本と英国の大学間あるいは企業と大学が協力する「Japan-UK Research and Education Network for Knowledge



三菱重工業株式会社飛鳥工場見学での記念撮影

Economy Initiatives (RENKEI)」と呼ばれるコンソーシアムが発足しました。この組織は、人材交流とネットワークの構築、グローバルな人材の育成、社会と企業のニーズに合った研究と開発を進めることなどを目的として、日本では東北大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、立命館大学の6大学、英国ではブリストル大学、リーズ大学、リバプール大学、ニューカッスル大学、サザンプトン大学、UCLの6大学合計12大学が参画しています。

ワークショップは、本学の航空宇宙工学の研究と日本の航空宇宙産業を学ぶとともに、両国の研究者間のネットワークを作ることを行われ、招待講演、三菱重工業株式会社飛鳥工場、島津製作所株式会社三条工場と創業記念資料館、かかみがはら航空宇宙科学博物館の3カ所の工場見学、航空宇宙工学専攻の研究室での実験とグループディスカッション、本学の研究と産学連携の実施例を紹介する講演、RENKEIの活動に関する意見交換、京都での日本文化遺産見学など多岐に渡りました。特に、英国の参加者からは、日本の大学の実験重視の研究スタイルから学ぶことが多く、また英国にはないロケットの組み立てを見学する貴重な機会であったなど高い評価が得られました。

「博士のキャリアパスシンポジウム」を開催

「博士のキャリアパスシンポジウム」が、7月30日(水)、野依記念学術交流館において開催されました。これは、社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターが「文部科学省科学技術人材育成費補助金ポストドクター・キャリア開発事業」の一環として毎年夏に開催しているもので、ポストドクや大学院生が、博士についての現状や産業界など



パネルディスカッションの様子

様々な場で求められる人材についての情報を得て、自らのキャリアに活かすことを目的としています。学部生や教職員、学外の方など約100名の参加がありました。

渡辺理事の開会あいさつに続き、和田勝行文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長による来賓あいさつ及び文部科学省からの最新の施策の説明がありました。また、基調講演として福沢純一三菱化学株式会社人事部採用グループマネージャーから「企業が博士人材に求めること」と題して講演がありました。その後、財満ビジネス人材育成センター長から本学の博士のキャリア支援体制について説明がありました。後半は、朴 熙万ラクオリア創薬株式会社創薬研究所部門生物研究部部長、中村明弘愛知県農業総合試験場企画普及部広域指導室専門員、吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授、長袋 洋武田薬品工業株式会社医薬研究本部ディレクターの4名によるパネルディスカッションが行われました。「博士を取得した同級生が博士取得後約15年の人生を語る!」と題して、それぞれの現職を踏まえて、キャリアの岐路で行動したこと、考えたことについて話がありました。また、参加者からの事前の質問に対して、登壇者同士で意見が述べられました。

第1回国際教育交流業務に関する教職員研修を開催

第1回国際教育交流業務に関する教職員研修が、6月27日(金)、広報プラザにおいて開催されました。本研修は、平成24年度から実施している「国立大学改革強化推進事業」による三重大学、愛知教育大学との三大学連携事業の一環として実施され、3大学の一層の国際化を推進するため、関係教職員に専門的な知識や能力を向上させることを目的



講演する阿部准教授

として国際教育交流本部が開催しました。

研修では、阿部 仁一橋大学国際教育センター准教授から「短期海外研修の開発事例：『Away（海外）で活躍できる学生の育成』」と題した講演、岩城奈巳国際教育交流センター教授から「『短期留学』の効果と課題」と題した話題提供が行われ、引き続き、意見交換（Q & A）を行いました。当日は三重大学、愛知教育大学とテレビ会議システムを用いて研修の様子を双方向でつなぎ、総勢約40名の教職員が参加しました。質疑応答では、「学生の派遣を促進するための工夫」、「派遣学生の危機管理」、「派遣学生の留学効果の測定方法」など、多数の質問が出され、活発な意見交換、情報収集が行われました。

なお、本研修は名古屋大学全学同窓会大学支援事業からの助成金により実施しており、今回を含めて全5回開催する予定です。

生物の1日の時間を計りとる仕組み

トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授
中道 範人

生き物における時間の認識機構を解明すること、また、その分子進化の理の解明を狙っています。概日時計にかぎらず、あらゆる生命現象が、化学反応の集合で記述できるはずですので、ITbMにおけるアプローチはユニークかつ重要な取り組みです。融合研究にとって大事なことは、異分野におけるヒトとヒトのつながりです。ITbMはそれを加速するため、ミックスコンセプトを掲げています。例えば、共有スペースに複数のラボからの学生と教員が集まり、常に顔をあわせられる「ミックスラボ」(図1)。また、有望な融合研究に研究所内の賞を与える「ITbM アワード制度」。このような試みは確実に新しい分野の創成を促し、また学生にとって最高の教育を提供しています。この研究教育環境の下で、私たちは生物種を超えて概日時計の機能を大きく変える化合物、つまり今までの時計機構の進化的な観点を書き換える可能性のある化合物を見いだしています(図2)。今後は、この化合物の生体内での作用機序を解明することで、今まで見過ごされてきた「生命にとっての時間」の理解が得られると期待しています。

図はITbM比留川治子さんに作成して頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

「あさがおに つるべとられて もらい水
加賀千代」

アサガオは、日長が短くなると花芽をつくりはじめます。また、花びらは朝に開きます。このような生命現象における季節や1日の移ろいを私たちは古くから知っていました。観葉植物だけでなく、多くの農作物、更にはヒトを含めた動物にも時間を計りとる仕組みがあります。この仕組みは、概日時計または生物時計といわれます。地球の自転と公転に起因する昼夜及び季節変化は、我々生命に時間的な制約を強いてきました。したがって、適応といった観点からみて、生き物が概日時計を獲得してきたことは、ごく自然なことかもしれません。

さて、生き物は時間をどのように測り取っているのでしょうか？ 近年の生命科学により、概日時計をつくりだす仕組みが分かってきつつあります。驚くことに、光合成細菌、カビ、植物、昆虫、そして動物で概日時計に関わるタンパク質配列には進化的な共通性はありません。

トランスフォーマティブ生命分子研究所 (Institute of Transformative Bio-molecules (以下「ITbM」という。))では、生命と化学の融合研究によって、

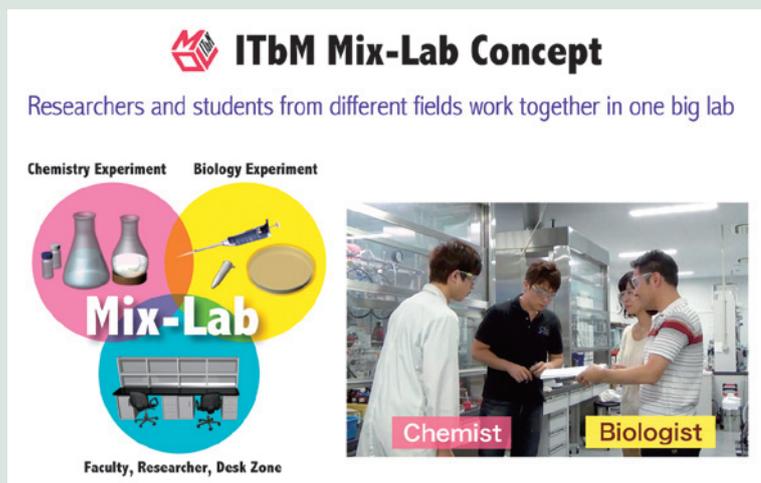


図1 ITbMにおける Mix-Lab。従来の学問領域にとらわれないコラボレーションが生まれつつある。

Chemical-biological approaches to understand circadian clock



図2 植物の時計を解き明かす化学/生物学的アプローチのイメージ

隠れた性質を可視化するーナノ領域分光と統計学の融合ー

武藤 俊介 エコトピア科学研究所グリーンマテリアル部門教授

ナノテクから省エネルギーへ

ナノテクノロジーという言葉には今では既に使い古された印象を抱きますが、日常生活で皆さんが身近に接する工業製品の中には「ナノメートル（十億分の一メートル）」の大きさで構造や組成が制御された材料がたくさん入っています。このような材料は自然界に存在する100種類程度の元素の組み合わせから成っていますから、たとえば大雑把に三種類の元素を使うとして見積もっても $100 \times 100 \times 100 =$ 百万通りの組み合わせの可能性があるわけです。その構成する元素の割合も含めて考えれば実際にはほとんど無限の組み合わせが考えられ、まだまだ新しい性質を作り出す可能性を秘めています。

既に十分に物質文明が発達し、更に新たな可能性を追求することも必要ですが、その一方でこれ

からはこの豊かな技術をいかに少ないエネルギー消費で維持していくかがむしろ優先されるという考え方もあります。材料科学の立場からいうと、同じ性質をもつ材料であればより小さい(少量の)材料でまかなえることが省エネルギーに寄与することになります。つまりより軽量小型で、より強い磁石、より起電力の高く容量の大きな電池、より貴金属を使わない触媒、より消費電力の小さい半導体素子、より摩擦の小さいコーティング膜などを開発することです。

電子を物質に当てて出てくる信号を余すこと無く検出・分析

このような材料開発のためには大きく分けて二つのアプローチがあります。一つは無数の可能性の中から経験を使いながら選択肢を絞り込み、たくさんの試行錯誤をすること(帰納的アプローチ)であり、もう一つは必要な性質の出てくる理由を理解することで材料設計指針を見つける(演繹的アプローチ)ことです。どちらも重要なアプローチであり、現実にはこの二つをうまく組み合わせるのですが、私達は第二のアプローチに比重を置いています。実際のナノテク材料では、格子欠陥と呼ばれる原子配列の乱れをわざと作ってやることで機能を発現しています。このような小さい領域の性質を探るために同じくらい細く絞った電子

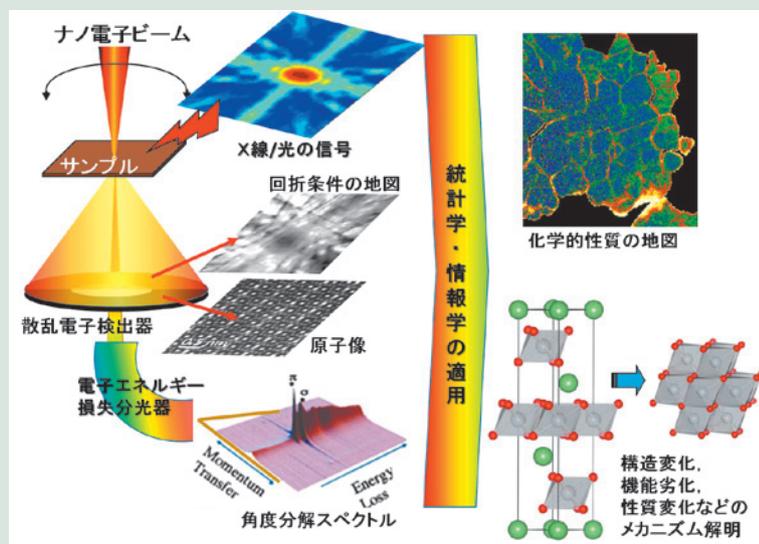


図1 複合電子顕微分光装置と統計・情報学の応用による物性画像診断法の概念図

をそこに当て、出てくる信号（光、X線、電子）を検出してその場所にある各元素の環境（化学結合状態といいます）を解読する「複合電子顕微分光装置」を作り上げました。この暗号解読のためには、固体の中の電子の振る舞いを示す運動方程式をコンピュータを使って解き、どのような信号が実験から出てくるかを予測することも重要です。

情報・統計学との融合

原子の数が10~1000個程度の小さな場所から出てくる信号は一般的にとっても弱く、しばしばノイズの中に埋もれていることがあります。そこで電子の針で材料の広い領域を網羅的になぞって調べ、たくさんさんのデータを収集します。そこに統計学や情報学という数学の道具を使って埋もれた信号をその特徴毎に分離して、それぞれの成分の空間分布をナノメートル分解能で表す地図をつくる「物性画像診断法」を編み出しました。

更に新しい分光法の開発—測ってなんぼ

電子の針を試料の上で平行移動して材料をなぞる代わりに、試料上の一点で電子が試料へ入る角度を順次変えることによって生じるX線や可視光発光強度変化から、元素/位置選択的な分光分析をする手法を確立しつつあります。これによって

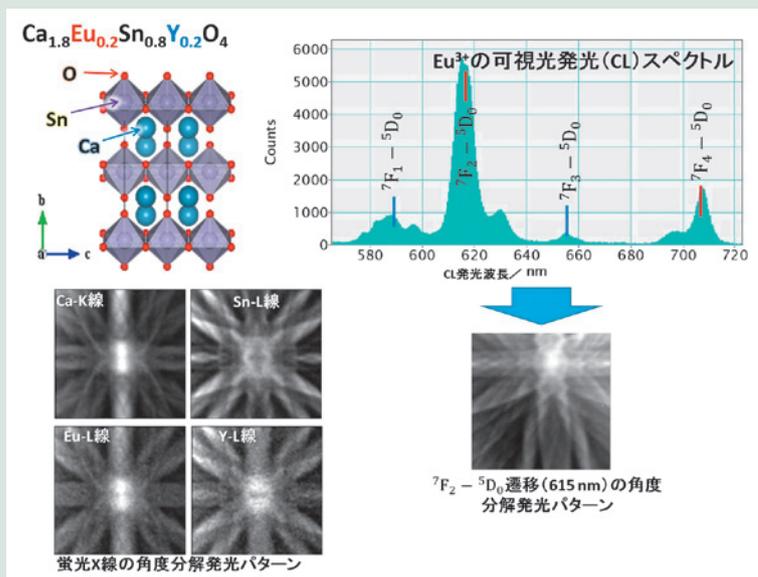


図2 赤色発光材料であるEu,Y添加Ca₂SnO₄セラミックスの構造モデルと蛍光X線及びカソードルミネッセンス（CL）の角度分解発光データ。蛍光X線パターンを統計処理によって添加元素がどの原子位置を占めているか、CL図形によってどの原子位置が赤く光っているかが定量的に明らかになる。

従来中性子や放射光のような大型施設を必要とした一部の解析を実験室レベルの小規模装置で精度良く測定できるようになります。一方では名古屋大学の大型電子顕微鏡（超高压走査透過型電子顕微鏡）の電子の持つ波の性質を利用して、電子が自転・公転している様子を捉えて（磁気角運動量の測定）磁石の性質を探ったり、電子の当たった原子が出す光の強度から、その隣にある原子との距離や種類を測る新しいナノ分析手法の開発に挑んでいます。

1984年京都大学理学部卒業、1988年大阪大学基礎工学研究科博士
後期課程中退後、大阪大学教養部助手、同理学部助手、1995年名古屋大学理工学総合研究センター助教授、2004年同工学研究科教授を経て、2013年より現職。若い頃はスキーに夢中だったが最近是国内ワイナリー探訪にはまっている。
モットー：他人が測れないものを測ってやろう

むとう しゅんすけ



第63回東海地区国立大学体育大会
—男子3位、女子4位—

第63回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、主に6、7月の土・日曜日に開催されました。今年度は岐阜大学が幹事大学となり、男子20種目、女子19種目を東海地区の8国立大学が分担して競技を運営し、実施しました。

出場した選手達は、東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、梅雨空を吹き飛ばすような熱戦で大会は大いに盛り上がりました。

大会は7月20日(日)をもって全競技が終了し、男子は岐阜大学が、女子は岐阜大学及び静岡大学が同点で共に優勝、本学は男子3位、女子4位という結果に終わりました。

直近では、男子は平成24年度に、女子は平成22年度に優勝しており、来年度に向けて選手の一層の精進と活躍が期待されます。

第63回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

■男子

競技種目	大学名	名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技		4	5.0	5	4.0	6	3.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	1	10.0	3	6.0	
2 水泳		1	10.0	2	8.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	3	6.0	
3 硬式野球																		1日目雨天中止、 2日目オープン競技
4 準硬式野球		3	5.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	3	5.5	1	10.0	5	2.5	3位、4位の区別なし、 5位以下は順位なし
5 硬式テニス		3	6.0	8	1.0	5	4.0	6	3.0	1	10.0	7	2.0	4	5.0	2	8.0	
6 ソフトテニス				1	8.0	2	6.0	5	2.0	5	2.0	5	2.0	3	5.0	4	4.0	前日雨天による1日中止のため 試合形式変更。5位以下順位なし
7 バスケットボール				4	3.0	1	6.0	6	1.0	3	4.0			5	2.0	2	5.0	
8 バレーボール		5	3.0	1	8.0	4	4.0	7	1.0	2	6.0	6	2.0			3	5.0	
9 卓球		3	4.0	6	1.0	2	5.0			1	6.0			5	2.0	4	3.0	
10 バドミントン		3	6.0	1	10.0	6	3.0	5	4.0	2	8.0	8	1.0	7	2.0	4	5.0	
11 サッカー		1	8.0			6	2.0	7	1.0	2	6.0	5	3.0	3	5.0	4	4.0	
12 ハンドボール		4	3.0	1	6.0	3	4.0			5	2.0			2	5.0	6	1.0	
13 柔道		2	5.0	1	6.0	5	1.5	5	1.5	3	4.0			4	3.0			5位以下は順位なし
14 剣道		4	5.0	1	10.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0	8	1.0	3	6.0	5	4.0	
15 空手道		1	8.0	3	5.0	7	1.0			2	6.0	6	2.0	4	4.0	5	3.0	
16 弓道		3	5.0	2	6.0	4	4.0	5	2.0	5	2.0	1	8.0			5	2.0	5位以下は順位なし
17 体操		2	5.0	1	6.0	4	3.0			3	4.0			5	2.0	—	0.0	三重大不参加（委員会後）
18 馬術		3	3.5	2	5.0	1	6.0			5	1.5			5	1.5	3	3.5	3位、4位の区別なし、 5位以下は順位なし
19 アーチェリー		2	4.0	4	2.0					3	3.0			5	1.0	1	5.0	
20 少林寺拳法		—	0.0	4	2.0					1	5.0			3	3.0	2	4.0	名大不参加（委員会後）
合計得点			86.0		93.5		67.5		22.0		93.0		30.5		69.5		71.0	
男子順位			3		1		6		8		2		7		5		4	

■女子

競技種目	大学名	名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技		4	4.0	3	5.0	6	2.0			2	6.0	7	1.0	1	8.0	5	3.0	
2 水泳		3	4.0	1	6.0					6	1.0	4	3.0	2	5.0	5	2.0	
5 硬式テニス		4	4.0	6	2.0			—	0.0	1	8.0	3	5.0	5	3.0	2	6.0	豊技大不参加（委員会後）
6 ソフトテニス				4	3.0	2	5.0			1	6.0	5	1.5	5	1.5	3	4.0	前日雨天による1日中止のため 試合形式変更。5位以下順位なし
7 バスケットボール		4	2.0	3	3.0					1	5.0			2	4.0	5	1.0	
8 バレーボール		4	3.0	3	4.0	—	0.0			2	5.0	5	2.0	1	6.0			名工大不参加（委員会後）
9 卓球		1	6.0	2	5.0	6	1.0			4	3.0			3	4.0	5	2.0	
10 バドミントン		7	1.0	5	3.0	4	4.0			2	6.0	3	5.0	1	8.0	6	2.0	
12 ハンドボール				1	4.0					—	0.0			2	3.0	3	2.0	静大不参加（委員会後）
13 柔道																		団体戦成立せず
14 剣道		2	5.0	1	6.0					4	3.0	6	1.0	5	2.0	3	4.0	
15 空手道		5	2.0	4	3.0					2	5.0	1	6.0	3	4.0	6	1.0	
16 弓道		5	3.0	2	6.0	3	5.0	7	1.0	6	2.0	1	8.0			4	4.0	
17 体操																		オープン競技
19 アーチェリー																		団体戦成立せず
合計得点			34.0		50.0		17.0		1.0		50.0		32.5		48.5		31.0	
女子順位			4		1		7		8		1		5		3		6	



準硬式野球



柔道



アーチェリー

名古屋 COI 拠点オープンデイ2014を開催

●未来社会創造機構



開会時の様子

未来社会創造機構は、7月31日(木)、豊田講堂ホール・シンポジオンにおいて、名古屋 COI 拠点オープンデイ2014を開催しました。

名古屋 COI 拠点は、昨年度、文部科学省と独立行政法人科学技術振興機構の「革新的イノベーション創出プログラム (COI STERAM)」に全国12拠点の1つとして採択され、「高齢者が元気になるモビリティ社会」の実現を目指し、社会実装を目標に、取り組むべき研究課題を設定するバックキャスト型研究開発を行っています。未来社会創造機構は、同拠点事業を推進するために今年4月に設置されました。学術研究・産学官連携推進本部長である松尾副総長が機構長を務め、大学や企業、公的機関が一体となったイノベーション創出拠点の構築を目指しています。今回のシンポジウムは、同機構の主催による初の公開シンポジウムとして開催されました。

当日は、学内外から一般市民を含めて500名を超える参加がありました。濱口総長による開会あいさつの後、木村直人文部科学省科学技術・学術政策局産学連携・地域

支援課長から来賓のあいさつがありました。第1部では、地球の広報・旅人・エッセイストとして活躍しているたかのてるこ氏より、「世界の笑顔に恋して～自分らしく生きて、自分を好きになろう!」と題した講演が行われ、続くパネルディスカッションでは、10年後の未来を想像し「笑顔であるために大切なことは何か」について、たかの氏を含む様々な年代のパネリストと会場の参加者から、様々な意見が述べられました。

また第2部では、江崎名古屋 COI 拠点長による同拠点の概要説明の後、未来社会創造機構に所属する教員から研究紹介が行われました。

シンポジオンや豊田講堂前庭では、自動走行のアイデアを参加者から募集するオープンワークショップや自動駐車車のデモが行われ、研究者と市民との交流を深める場となりました。最後に松尾機構長から会場の参加者に、社会ニーズ調査や社会実証実験への協力をお願いが述べられ閉会となりました。



パネルディスカッションの様子



シンポジオンでのオープンワークショップの様子

ひらめき☆ときめきサイエンス・先進科学塾@名大番外編を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、7月26日(土)、27日(日)、理学部C館において、ひらめき☆ときめきサイエンス・先進科学塾@名大番外編、「見えない粒子線を霧箱で見て速さをはかる」を開催しました。ひらめき☆ときめきサイエンスは、日本学術振興会が支援する研究成果公開事業です。また、先進科学塾@名大は数多くの実験を行い、市民に科学を楽



グループ発表の準備をする参加者

しんでもらう事を目的とした実験講座で、今回はその番外編として開催されました。

今回の講座では、大学院理学研究科基本粒子研究室（F研）客員研究員である林熙 崇氏が開発した高感度霧箱を各自1つずつ工作して、飛来する宇宙線や自然界に存在する放射線を観察し、素粒子の世界を探検しました。観察した飛跡の特徴をつかみ、形態で分類するなどしてその正体に迫り、グループごとの発表も行いました。また、F研のニュートリノや暗黒物質の研究紹介、研究室見学もあり、素粒子宇宙研究の現場の雰囲気を感じました。参加者は中学生24名、高校生16名、一般の方19名の計59名でした。

次回は、9月下旬に、先進科学塾@名大 第6回講座「元素の旅」を開催予定で、この化学の講座では元素の不滅を実験で確かめる予定です。

先進科学塾では、希望があれば近隣の中学・高校への出前授業なども行っていきます。先進科学塾@名大のホームページ：<http://asw.flab.phys.nagoya-u.ac.jp/>

科研費プロジェクト連続企画「ドイツ語圏の芸術誌の研究」を開催

●大学院国際言語文化研究科

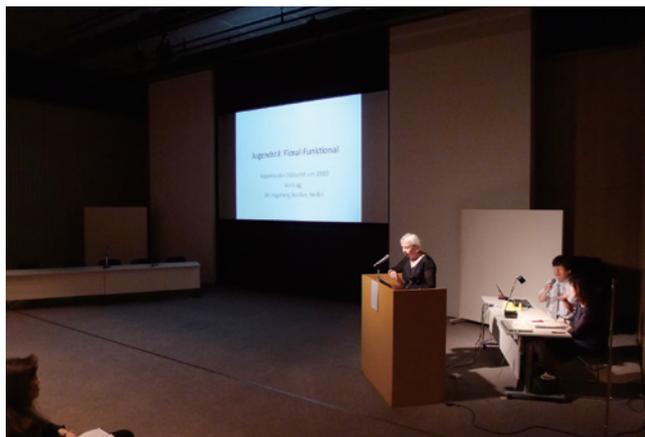
大学院国際言語文化研究科は、7月21日(月)、25日(金)、8月2日(土)の3日間、文系総合館及び豊田市美術館において、科研費プロジェクト連続企画「ドイツ語圏の芸術誌の研究」を開催しました。この企画は、世紀転換期から1930年代までのドイツ語圏の文化・芸術の多様な姿、そして日欧の影響関係について当時発行されていた芸術誌の分

析を通して紹介することを目的としたものです。

7月21日(月)には、豊田市美術館において、西川智之国際言語文化研究科教授が、「ウィーン分離派とクリムト—『ヴェル・サクルム』を中心に」と題したレクチャーを行いました。

25日(金)には、文系総合館において、「線は力なり—アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ：ユーゲント・シュティールからバウハウスへ」と題して、インゲボルク・ベッカーベルリンプレーハン美術館前館長による講演会を開催しました。豊富な画像を使い、19世紀末から20世紀初めに活躍したベルギーの建築家であるヴァン・デ・ヴェルデの作品の特徴について分かりやすく解説がありました。

8月2日(土)には、再び豊田市美術館において、シンポジウム「アート（芸術・技）の垣塙—世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌」を行いました。午前中は、ベッカー前館長による基調講演が行われ、午後からは日本人研究者5名によるシンポジウムを行いました。東京や京都、和歌山、三重など遠方からも含め50名以上の参加があり、充実した内容のシンポジウムとなりました。



ベッカー前館長による講演の様子

化学・生物実験講習会を開催

●工学部



開会式で説明を聞く参加者

工学部は、8月5日(火)、同学部化学・生物工学科の各実験室において、化学・生物実験講習会を開催しました。

この講習会は、主に東海地区の高校生を対象として体験学習の機会を提供するもので、高校生が応用化学、生物機能工学、分子化学工学の実験を通じて教員や大学院生と交流し、大学で化学を学ぶことの楽しさを体感してもらうことを目的として、毎年この時期に実施しています。定員を大幅に超える応募があったため、抽選により24校から70名の高校生が参加しました。

参加者は、「ボルフィリン合成～色のある分子を作る・取り出す・見る」、「光るDNAを作ろう」、「お菓子の乾燥剤が地球を救う」など、12の用意された実験テーマの中から、午前、午後に1テーマずつ取り組みました。普段は立ち入ることのない大学の研究室で、教員や大学院生の指導のもと実験に参加した高校生たちは、大学で学ぶ化学・生物分野への興味を深めていました。

平成26年度工学部懇話会を開催

●工学部



懇話会の様子

工学部は、8月6日(水)、ES総合館3階大会議室において、平成26年度工学部懇話会を開催しました。この懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、同学部について知ってもらい、その教育・研究を評価してもらうことを目的に毎年開催しているもので、今回は「名大工学部のグローバル化」をテーマに、近隣5県の32の高等学校から35名の教諭が参加しました。松下工学部長からあいさつと同学部の概要説明があった後、同学部の各学科長から教育・研究内容について説明があり、工学研究科博士課程前期課程1年の加納隼人さんから「学生生活とグローバル化」と題した講演が行われました。

講演の後、質疑応答及び意見交換が行われ、教育内容、入試及び就職状況等について忌憚のない討論が行われました。昨年度から行われ好評を博している少人数グループによる意見交換は、予定時間を超過するほど盛り上がりました。意見交換の後、研究室見学も行われました。

テクノフロンティアセミナー (TEFS) を開催

●工学部



実験課題に取り組む高校生

工学部は8月7日(木)、同学部電気電子・情報工学科の各学生実験室等において、テクノフロンティアセミナー (Techno-Frontier Seminar : TEFS) を開催しました。このセミナーは、最先端の研究を直接体験して工学の面白さを理解してもらうことにより、近年の若年層の理工系離れを少しでも解消することを目的に、公益財団法人KDDI財団の援助のもと教員の有志によって開催されています。平成7年度から毎年この時期に高校生を対象に開催しており、今年で20回目の開催となりました。今年では東海地方を中心とした高等学校・高等専門学校から43名の参加がありました。参加者は各自が選んだ課題について試行錯誤を繰り返しながら、熱心に製作・実験に取り組みました。また、参加者は教員や大学院生との交流や大学施設の利用を通じ、大学生活を実感する充実した一日を過ごしました。このセミナーを通じて、参加者が電気電子・情報分野により興味を持ってもらえることを期待しています。

テクノサイエンスセミナー2014を開催

●工学部



物理工学科の紹介の様子

工学部は、8月8日(金)、同学部物理工学科の各研究室において、テクノサイエンスセミナー2014「物理の世界にあそぶ」を開催しました。このセミナーは、高校生を対象として、講義と体験実験を行い、教員や大学院生とふれあうことにより、物理工学の様々な分野における研究の面白さを体感してもらうことを目的としています。今年は、東海・北陸地域から40名の高校生が参加しました。

当日は、参加者全員に対して物理工学科の紹介を行った後、「鍛造加工により金属製ペンダントを作ってみよう」など、各自で選んだ10のテーマに分かれて、午前中に講義、午後から実験を行いました。参加者は、教員や大学院生のアドバイスを受けながら、熱心に実験に取り組んでいました。

実験後には、修了証の授与と交流会を行いました。参加した高校生は、最新の研究設備を使った実験を体験することで大きな刺激を受け、大学の理工学研究に対してさらに興味を深めていました。

ミクロの探検隊®を開催

●博物館



電子顕微鏡を用いた観察の様子

博物館は、7月26日(土)、ミクロの探検隊®を開催しました。今回は「観察園のムシ」をテーマに、抽選で選ばれた小中学生23名が参加しました。

最初に、危険なムシやビーティングネットを使った採取方法を学習し、実際に観察園においてムシの採集を行いました。最初はこわごわ採集を行っていた参加者たちも、慣れてくるとビーティングネットに落ちたムシを上手にビンに移していました。その後、実体顕微鏡での観察、電子顕微鏡試料作り、竹田真木生神戸大学教授によるムシの講義と続き、最後に、実際に電子顕微鏡を使つての観察、撮影を行いました。どの参加者も、画面に映し出される拡大されたムシの姿に夢中の様子でした。アンケートでは、「また参加したい、より科学に興味を持った」などの感想があり、参加者にとって、実際に体験することの、楽しさ、おもしろさと科学が結びついた有意義な催しとなりました。

第55回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館は、8月9日(土)、第55回博物館コンサート「MUSEUM MUSIC」を開催しました。今回は教育学部附属中・高等学校のプラスバンド部による演奏が行われました。附属中・高等学校のプラスバンド部は、毎年、コンクールやジャズドリーム長島、定期演奏会、光粒祭(文化祭)などに出演していますが、同館では初の演奏となりました。総勢50名の部員が、曲ごとにメンバーを入れ替えて行う演奏は、コンクール発表用の曲から、今年4月に入部した部員のみで演奏する曲まで様々でしたが、どの曲も部員たちの真剣さが伝わってきました。「『斎太郎節』の主題歌による幻想」、「SEA OLYMPIC WISDOM ~知恵を持つ海」、「SING SING SING」をはじめとする全7曲が熱演され、鳴り止まぬ拍手の内にコンサートは終了しました。

当日は台風が接近する中、聴衆が129名といつもより少なめでしたが、生徒自らが会場のセッティングから演奏までを行い、素晴らしいコンサートとなりました。

公開実験講座2014「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」を開催

●生物機能開発利用研究センター

生物機能開発利用研究センターは、8月2日(土)、3日(日)の2日間、同センターにおいて、公開実験講座2014「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」を開催しました。

この公開実験講座は、毎年、一般の方を対象にバイオテクノロジーの一端を体験してもらうことを通じて、バイオ



実験講座の様子

サイエンスに関する理解を深めてもらうことを目的に開催しているものです。

今年の実験講座には、高校生、高専生、大学生及び社会人の計15名が参加し、「細胞の顔、糖鎖を見てみよう」、「自分の遺伝子を見てみよう」、「魚を使って生物学を学ぼう」と題した3つのコースに分かれて実験に取り組みました。また、最終日には、芦荊基行生物機能開発利用研究センター教授による特別セミナー「科学で植物を改変する」を開催しました。

参加者は、初めて見る実験器具や機械に最初はとまどった様子でしたが、講師の教員やアシスタントの指導を受けることで徐々に慣れ、楽しく実験に取り組んでいました。

終了時のアンケートでは、「期待以上だった」、「とても楽しかった」、「もっと詳しく知りたい」など、今後、この講座をより良くしていくための貴重な意見が見られ、多くの参加者から、「最先端技術の見学や、実際にそれらを使用して実験ができた」、「高校では学べないような体験ができた」、「是非続けてほしい」といった感想がありました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
1 いのちを守る防災：福和伸夫減災連携研究センター教授が委員長を務める「減災まちづくり研究会」が「減災まちづくりワークショップ」を開催	7.16 (水)	毎日 (朝刊)
2 さあ！ 出発：中日本高速道路株式会社代表取締役社長宮池克人氏本学大学院修了	7.16 (水)	日刊工業
3 本学を国立ヤンゴン大学学長アウントゥ氏が訪問し瀆口総長は「支援を通じて学んだ研究者らが将来、政府の中核で活躍することを願っている」と語る	7.17 (木)	毎日 (朝刊)
4 本学と超低電圧デバイス技術研究組合はデータセンターのソリッド・ステート・ドライブ向け新型相変化メモリーを開発	7.17 (木)	日刊工業
5 名古屋大学排泄情報センター・認定 NPO 愛知排泄ケア研究会共催「市民公開講座」開催：21日 医学部附属病院中央診療棟3階講堂で行われる	7.17 (木)	読売
6 学ぶ育む：大学の實力 学部別 卒業生の進路① 本学の卒業生の進路	7.17 (木)	読売
7 石原一彰工学研究科教授などのグループは次亜ヨウ素酸塩触媒を用いた天然型ビタミン E の高効率不斉合成に成功	7.18 (金)	日刊工業 他3社 科学新聞
8 エコトピア科学研究所、東京大学、東京工業大学などのグループは共同でタンパク質「ダイニン」が鞭毛を構成するタンパク質繊維「微小管」上に規則的に並ぶ仕組みを突き止めた	7.18 (金)	科学新聞
9 市民公開講座「のぞいてみよう！ プラズマと生物と医療の不思議な世界」開催：8月10日 本学教授の講演やプラズマナノ工学研究センター見学会が行われる	7.18 (金) 8. 7 (木)	毎日 (朝刊) 読売
10 クローズアップ2014：DNA 鑑定で父子 認めず 勝又義直本学名誉教授は「鑑定だけでは親子の問題は解決しない。DNA 型鑑定をどう社会に適切に組み込んでいくのか、子の福祉のために法整備やルールづくりが必要だ」と語る	7.18 (金)	毎日 (朝刊)
11 私の視点：高校の地理教育 だれもが学ぶ基礎科目に 鈴木康弘減災連携研究センター教授	7.19 (土)	朝日 (朝刊)
12 伊藤義人工学研究科教授はリニア中央新幹線が環境に与える影響について「JR 東海は工事が始まってからも環境への影響を厳しく監視し、情報提供することが必要」と語る	7.19 (土)	読売
13 赤崎 勇本学特別教授の恩賜賞・日本学士院賞記念祝賀会が19日に開かれた	7.20 (日)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
14 書籍「誰が差別をつくるのか」吉田早悠里文学研究科特任助教著	7.20 (日)	読売
15 名古屋 COI 拠点 オープンデイ2014開催：31日	7.20 (日) 7.30 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
16 備える3.11から 水谷法美工学研究科教授が津波について解説	7.21 (月)	中日 (朝刊)
17 リクルート進学総研が高校3年生に志願したい大学について尋ねた調査結果を公表し本学が東海地区で2位になった	7.21 (月) 7.28 (月)	日経 (朝刊) 毎日 (朝刊)
18 つなごう医療230：医療に生かせ3D プリンター 本学社会イノベーションデザイン学センターのプロジェクトが取り上げられる	7.22 (火)	中日 (朝刊)
19 この人：名大とモンゴルの橋渡し役 中村真咲 PhD 登龍門推進室特任准教授	7.24 (木)	中日 (朝刊)
20 高橋雅英医学系研究科教授、榎本 篤同准教授、翁良同特任助教のグループはがん細胞が転移する際に「ガーディン」と呼ばれるタンパク質が重要な役割を果たしていることを突き止めた	7.25 (金)	中日 (朝刊)
21 佐藤憲昭理学研究科教授、京都大学と東北大学など共同研究グループはウラン化合物の「UCoGe」の特異な超電導の増大は磁場によって強められた磁石になろうとする力によって強められていることを解明	7.25 (金)	科学新聞
22 平成26年度「中部科学技術センター学術奨励研究助成事業」助成先：進藤麻子理学研究科助教	7.25 (金)	中日 (朝刊)
23 第19回名古屋大学博物館特別展「絹谷幸太 創知彫刻」開催：24日～11月29日	7.25 (金)	毎日 (朝刊)
24 医療ルネサンス No.5867進む再生医療5/5：国立病院機構名古屋医療センター名誉院長斎藤英彦本学名誉教授	7.25 (金)	読売
25 be report：風力発電の「誤解」を解く 丸山康司環境学研究科准教授は風力発電設備の騒音について「個人の感受性もあるが、むしろ風車との関係に左右されることが多い」と語る	7.26 (土)	朝日 (朝刊)
26 「あいちサイエンスフェスティバル2014」開催：9月27日～11月3日	7.26 (土)	読売
27 中日新聞「リンクト」：HUMAN'S EYE 松尾清一医学系研究科教授	7.29 (火)	中日 (朝刊)
28 本学と富士フィルム株式会社、日立製作所グループなどによる産学コンソーシアムはベトナム・ハノイに「日本・ベトナム消化器内視鏡センター」を開設	7.30 (水)	日経 (朝刊)
29 愛知県「女子中高生の理系！きっかけシンポジウム」開催：8月19日 上川内あづさ理学研究科教授が講演	7.30 (水)	読売
30 のよりサロン：政治も就職先の1つに 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	7.31 (木)	中日 (朝刊)
31 法学研究科と十六銀行が情報提供などの相互協力に関する覚書を交わした	7.31 (木) 8.12 (火)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
32 本学はアジアサテライトキャンパス学院長に磯田文雄氏を選出	8. 1 (金)	中日 (朝刊)
33 丸い交差点ラウンドアバウト導入④：信号 必要ですか 中村英樹環境学研究科教授は「ラウンドアバウトを防災に生かそうとしている国は、おそらく日本が初めてだ」と語る	8. 1 (金)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
34 平成26年度第2回地球教室フィールドセミナー「河原で宝石と歴史を見つけよう！」開催：23、24日	8. 1 (金)	日経 (夕刊)
35 新井伸夫減災連携研究センター特任教授によると防災利用に期待される超低周波が東日本大震災では、沿岸部から約60キロ内陸になる岩手県奥州市の国立天文台で地震発生の約6分後に観測されたことが分かった	8. 2 (土)	中日 (夕刊)
36 あいちイクメン応援会議初会合：1日 本学の男性教職員で初めて育児休暇を取得した田村哲樹法学研究科教授が出席	8. 2 (土)	読売
37 生源寺眞一生命農学研究科教授が生産調整などの農政について「むしろ農協が制度や政策を担うことの是非を問う議論が必要だ」と語る	8. 3 (日)	日経 (朝刊)
38 水谷研治本学客員教授は2千円札について「これほどまでに邪魔者扱いされるとは、政府も当初は予想できなかったのだろう」と語る	8. 3 (日)	読売
39 病院の実力：肺がん 医学部附属病院の実績が紹介される	8. 3 (日)	読売
40 ドクター井口のほのぼのクリニック 子供たちはタフで元気です 愛知淑徳大学教授井口昭久本学名誉教授	8. 3 (日)	毎日 (朝刊)
41 備える3.11から 第98回想定シリーズ⑦ 津波 (中) 教えて、センセイ！：中井健太郎工学研究科准教授	8. 4 (月)	中日 (朝刊)
42 附属図書館医学部分館、大学文書資料室企画展「戦争と大学－1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学－」開催：1日～31日	8. 4 (月) 8.14 (木)	朝日 (朝刊) 読売
43 川瀬晃道工学研究科教授は封筒に入った麻薬や覚醒剤を開封しなくても見つける技術を開発	8. 5 (火)	日経 (朝刊)
44 アジアサテライトキャンパス発足記念 看板上掲式 開催：4日 濱口総長は「アジアの国々では、みな『政策立案能力を高めるために勉強して博士号が取りたい』と言う。国際版の社会人入学コースを作ればできると思った」と語り、磯田文雄アジアサテライトキャンパス学院長は「人づくりでアジア諸国に貢献できることは意義があると信じている」と語る	8. 5 (火) 8. 7 (木)	日経 (朝刊) 朝日 (朝刊)
45 七原優介教育学部4年生が愛知大学野球選抜として中日ドラゴンズ2軍とのプロアマ交流戦に登板し1イニング2失点の内容だった	8. 6 (水)	中日スポーツ
46 『備える3.11から』ライブ！大震災を生き抜く」開催：24日 本学で行われる同フォーラムの参加者募集	8. 6 (水)	中日 (朝刊)
47 ゲノム解読で進む イネ改良 農業生物資源研究所在籍中にイネのゲノム解読を行った東京農業大学教授佐々木卓治氏本学元教職員	8. 7 (木)	毎日 (朝刊)
48 本学の太陽地球環境研究所豊川分室がある豊川海軍工廠跡地の公園整備計画について本学の所有地約3ヘクタールを公園として整備する方針を豊川市が示した	8. 7 (木)	毎日 (朝刊)
49 愛知県立図書館サイエンスセミナー開催：企画展示「サイエンスが面白い」の関連企画として本学准教授などが講演	8. 7 (木)	読売
50 附属図書館医学部分館、大学文書資料室企画展「戦争と大学－1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学－」開催：1日～31日 堀田慎一郎大学文書資料室特任助教は田ノ井貞治氏が滝仲孟雄大慰の最期を手記に残していたことについて「この手記のおかげで滝仲孟雄大慰が自殺した事実が明らかになった。(滝仲孟雄大慰の安否を気にかけていた)女優の故森 光子さんも、安否を知り、つかえが取れただろう」と語る	8. 7 (木)	中日 (朝刊)
51 本学や豊橋技術科学大学などを愛知県が支援し産学連携をテコに医療器分野の育成を強化	8. 8 (金)	日経 (朝刊)
52 大学教員に成果主義の波 中島哲彦教育発達科学研究科教授は「評価基準に合わせて行動する教員が増えれば、評価されにくい分野の研究や教育がなくなっていく恐れがある」と語る	8. 8 (金)	朝日 (朝刊)
53 七原優介教育学部4年生が愛知大学野球選抜として読売ジャイアンツ2軍とのプロアマ交流戦に先発し2イニング3失点の内容だった	8. 8 (金)	朝日 (朝刊)
54 私の備える 8.24フォーラムによせて：福和伸夫減災連携研究センター教授	8. 9 (土)	中日 (朝刊)
55 学ぶ育む：本学が今年、東京大学の留学生対象のネット出願システムを導入したことが取り上げられる	8. 9 (土)	読売
56 ひ・と・も・よ・う：書籍「アクセプトされる論文の書きかた」を出版した上出洋介本学名誉教授は「もっと論文を書き、世界と勝負を」と語る	8. 9 (土)	毎日 (朝刊)
57 いまドキッ！大学生：目指せ やる気が出る授業 本学の学生でつくる「学生教育委員会」は毎月1回、教員の会議に参加し意見を述べ委員長の山崎雅史さん本学4年生は「授業についていけない学生もいる。しっかりした授業をしてほしい。」と語る	8.12 (火)	中日 (朝刊)
58 京都大学教授森 重文本学特別教授が「国際数学連合」の総裁に選出されたことについて金銅誠之多元数理科学研究科教授は「若くして数学界では有名な存在だったが、気さくで偉ぶらず、リーダーシップもあって周囲から信頼も厚い」と語る	8.12 (火)	中日 (夕刊) 他2社
59 防災の知恵：学ぶ機会 家庭、地域で 福和伸夫減災連携研究センター教授は防災教育セミナーで「学んだことを行動に結びつけてください」と語る	8.13 (水)	読売
60 外山修之本学名誉教授がスウェーデン王立科学アカデミーの選考資料からノーベル化学賞の候補者だったことが分かった	8.14 (木)	毎日 (夕刊) 日経 (夕刊)
61 上垣外正己工学研究科教授と佐藤浩太郎准教授などは2種類の原料から高分子を合成するポリマー合成手法を開発	8.14 (木)	科学工業日報
62 第48回名大カフェ“Science, and Me”日本語タイムトラベル開催：20日 宮地朝子文学研究科准教授が講演	8.15 (金)	毎日 (朝刊)
63 並木満夫本学名誉教授が戦争体験をピース愛知で14日に講演	8.15 (金)	中日 (朝刊)
64 ぼくは12歳だった 名古屋空襲に寄せて 作家辻 真先本学卒業生	8.15 (金)	中日 (夕刊)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月11日(水)～9月30日(火)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00(平日)
(8/8～9/30の平日は9:00～17:00)、
13:00～17:00(土曜日)

休 館 日：日・祝日、
8月9日～9月27日の土曜日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

附属図書館医学部分館第7回ミニ展示会

**「千年の医書—平安時代から江戸時代までの
古医書の世界—」**

内 容：「医心方」、「病草紙」、「傷寒論」、「捷徑医筈」、「蔵志図」、
「解体新書」、「解体約図」など、古医書の歴史を語る上で
極めて重要な史料(一部複製版)を展示



7月24日(木)～11月29日(土)

場 所：博物館前庭、テラス、
特別展示会場

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第19回博物館特別展「絹谷幸太 創知彫刻」

[関連特別講演会]

場 所：博物館3階講義室

時 間：14:00～15:30

講演題目：「美術館における彫刻展示」(10/1)

講 演 者：南城 守氏(奈良県立美術館学芸課長)

講演題目：「創知が世界を救う」(10/29)

講 演 者：島田久仁彦氏(環境省参与)

対 象：一般

参 加 費：無料



8月19日(火)～10月16日(木)
(期間内の火・木曜日)

場 所：経済学部1階第2講義室

時 間：18:00～19:30

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：9,460円(全15回)

[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-789-5969

平成26年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「おもしろいことは『境界』で起こる」



9月1日(月)～10月24日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日

(10/18は開館)

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示

「水辺の宝石—トンボ—」



9月2日(火)～10月18日(土)

場 所：減災館

時 間：13:00～16:00

休 館 日：日・月・第2、第4火曜日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

減災館第1回特別企画展

「伊勢湾台風—日本の防災の幕開け—」



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月17日(水)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo

「夜を想うー暁までの星たちの旅」

演奏曲目：「月の光」クロード・ドビュッシー、
「アーリーモーニング変奏曲」ジャン＝ミシェル・ダマーズ、他
出 演：邊見巫矢氏（フルート）、荒木まどか氏（ハープ）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



9月22日(月)

場 所：全学教育北棟 4階
多目的講義室 (406号室)
時 間：15:30～18:30
対 象：一般
参 加 費：無料

国際言語文化研究科

第24回応用言語学講座公開連続講演会

講演題目：「Culture and Grammar in Functional-based Linguistics」
講 師：ダニエル・エヴェレット氏（ペントレー大学教授）
内 容：ドキュメンタリー映画上映と討論、講演

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科 教授 堀江 薫
horie@lang.nagoya-u.ac.jp



9月24日(水)～10月10日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日・祝日
入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウス実習生ミニ展示

「生き物のかたちー博物館実習展示ー」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

9月27日(土)～11月3日(月)

場 所：愛知県全域

あいちサイエンスフェスティバル2014

内 容：県内の高等教育研究機関や社会教育施設と連携し、
さまざまなサイエンスイベントを開催

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部
あいちサイエンスフェスティバル事務局
052-747-6527



9月27日(土)、10月4日(土)、19日(日)、25日(土)

場 所：三井住友銀行 SMBC パーク栄
(名古屋市中区)
(9/27、10/4、10/25)、
ES 総合館 1階 ES ホール (10/19)
時 間：14:00～16:00
対 象：中学生以上、一般
参 加 費：無料

市民向け講演会「先端科学技術と社会」

講演題目：「ESD と国際社会ーESD 世界会合の成功に向けて」(9/27)
講 演 者：竹本和彦氏 (国連大学サステナビリティ高等研究所長)
講演題目：「丸ごと地球をとっておこうーめぐる、つづく、一緒に」
(10/4)
講 演 者：百瀬則子氏

(ユニーグループ・ホールディングス株式会社執行役員)

講演題目：「iPS 細胞による網膜再生ー再生医療研究の最先端」(10/19)
講 演 者：高橋政代氏 (理化学研究所網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー)
講演題目：「生命の時を刻むタンパク質ー生物はどのように時間を感じるか」(10/25)
講 演 者：近藤孝男 (理学研究科特任教授)

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部
あいちサイエンスフェスティバル事務局
052-747-6527



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月29日(月)～10月31日(金)

(期間中の平日)

場 所：右記参照

時 間：18:30～20:00

対 象：中学生以上、一般

定 員：30名

参 加 費：無料 (「パームス」「ボクモ」会場は
飲食注文、テレビ塔は入場料が必要)

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部

あいちサイエンスフェスティバル事務局

052-747-6527

さかえサイエンストーク

内 容：週替わりテーマと曜日毎の会場を設定して行う
市民と専門家との気軽な対話イベント

場 所：月曜日 三井住友銀行 SMBC パーク栄

火曜日 カフェ&バー パームス

水曜日 ジュンク堂書店ロフト名古屋店

7階ブックサロン

木曜日 文化系飲食店 ボクモ

金曜日 名古屋テレビ塔スカイデッキ



9月29日(月)

場 所：農学部講義棟 3階第2講義室

時 間：15:30～17:00

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター

教授 浅沼修一 052-789-4232

農学国際教育協力研究センター

2014年度第5回オープンセミナー

講演題目：「バングラデッシュにおける稲作の現状と課題：
非生物的ストレス克服に向けた研究」

講 演 者：シェリー・イシュラット・ジャハン

(農学国際教育協力研究センター客員准教授)



**10月4日(土)、11月8日(土)、
11月29日(土)、12月13日(土)、
1月24日(土)**

場 所：理農館 3階335号室

時 間：10:00～15:00

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

ビジネス人材育成センター 平成26年度後期 B 人セミナー

テ ー マ：「ベンチャー精神、ベンチャー企業の現状、
「博士人材が持っているべき素養・素質について考える
－自己の強みを意識し、表現するスキルを習得しよう－」(10/4)
「弁理士業務の実際と将来求められる人物像、
「シンクタンク業界の業務の実際
－アカデミアの研究、シンクタンクの『研究』－」(11/8)
「Communications Styles – helping you to create good and
lasting impressions –」、「国内／海外の再生医療業界について」(11/29)
「博士の就活スタート・リスタート
－社会からの評価と自己評価・私らしい未来を獲得するために－、
「プレゼンテーションスキル研修
－研究発表を、誰にでもわかりやすくプレゼンテーション－」(12/13)

10月8日(水)～1月30日(金)

場 所：附属図書館医学部分館

2階入口ホール

時 間：9:00～20:00 (平日)

(1/5～7は9:00～17:00)、

13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、12月29日～1月3日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

附属図書館医学部分館第8回ミニ展示会

「医心 絵心－医師たちの画力－」

内 容：愛知医科大学の解剖学者 奈良坂源一郎の博物画、県立愛知医科大
大学の皮膚科学者 太田正雄 (木下奎太郎) の絵画など、解剖図だ
けでなく、人物、静物、動植物などの多様なモチーフに発揮さ
れた先輩医師たちの素晴らしい画力を展示公開する



10月8日(水)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール

時 間：10:00～17:30

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：無料 (情報交換会は3,000円)

[問い合わせ先]

情報科学研究科

附属組込みシステム研究センター

052-789-5186

第4回情報科学研究科附属組込みシステム研究センター

シンポジウム

内 容：講演、活動紹介、成果発表、ポスター展示

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月18日(土)

場 所：東山キャンパス
時 間：10:00～
参 加 費：無料

第10回ホームカミングデイ 「情報化社会における融和からの発展」

内 容：名古屋大学の集い、学術講演、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート、名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室、あかりんご隊科学実験、施設公開・見学ツアー、他



[問い合わせ先]

総務部広報渉外課 052-747-6558

10月27日(月)

場 所：野依記念学術交流館2階
カンファレンスホール
時 間：10:00～18:00
定 員：300名
対 象：有機合成化学に興味のある方
参 加 費：無料

第20回名古屋メダルセミナー

講 演 者：ジョン・ハートウィッグ氏 (カリフォルニア大学
バークレー校教授)、浜地 格氏 (京都大学教授)
内 容：有機合成化学



[問い合わせ先]

トランスフォーマティブ生命分子研究所
特任助教 宮崎亜矢子 052-789-4999

11月8日(土)

場 所：博物館2階展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo 「名古屋大学交響楽団メンバーによるアンサンブル コンサート」

演奏曲目：『『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』より
第一楽章 Allegro』 モーツァルト、
「ディヴェルティメント」ハイドン、
「金管五重奏曲第1番」エヴァルド、他
出 演：名古屋大学交響楽団



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月12日(水)

場 所：博物館野外観察園、
博物館2階展示室
時 間：13:00～15:00
参 加 費：無料

博物館野外観察園見学会

講 師：西田佐知子 (博物館准教授)、
野崎ますみ (同研究員)
内 容：季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を見る



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.256 平成26年9月16日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

研究所共同館

(平成26年8月18日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

149 名大史における野球と甲子園

先月、第96回全国高等学校野球選手権大会、いわゆる夏の甲子園大会が行われ、今年も多く熱戦やドラマを生み出したことは記憶に新しいところです。

名大は、硬式野球部、準硬式野球部、医学部準硬式野球部、軟式野球部のほかサークルもあり、現在でも野球が盛んですが、甲子園球場との縁があるとはなかなか想像できないと思います。しかし、経済学部の前身にあたる名古屋高等商業学校（名高商）野球部が、甲子園球場で全国大会の決勝戦を戦ったという歴史があります。

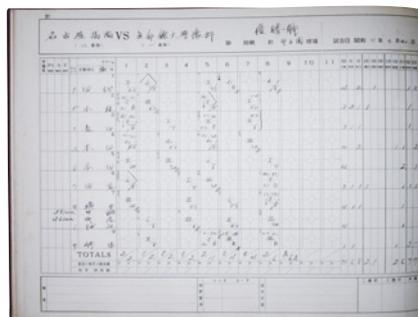
現在でも国民的スポーツとしての地位を保っている野球ですが、これは近代以来のことです。ただ、日本でプロ野球が始まったのは1930年代半ばと比較的遅く、当初のその中心は学生野球でした。人々は甲子園大会や早慶戦のラジオ放送に熱狂したのです。

1920(大正9)年に名高商が設置されると、早くもその翌年には、学友会に硬式野球部が創設されました。その後、

名高商野球部は徐々に実力をつけていきました。1929(昭和4)年には来日したアメリカのミシガン大学との国際試合を開催し、その翌年には南満州鉄道（満鉄）や大連実業団と対戦するために中国東北部へ遠征するなど、その力の入れようが分かります。

そして1931年、名高商は地区大会を勝ち抜き、第8回全国高等専門学校野球大会に出場します。現在の高校野球の甲子園大会の前身は当時の中等学校の大会でしたが、この高等学校と専門学校を対象とする全国大会も甲子園球場で行われていました。

名高商は、準決勝で山口高等商業学校（山口大学経済学部の前身）を破り、7月28日に立命館大学予科と優勝を争うことになりました。この試合は、大阪中央放送局（NHK大阪放送局の前身）によってラジオ放送されるなど、大きな注目を集めていました。そして6対4で名高商が勝ち、見事優勝を成し遂げたのでした。



1	2
4	3

- 1 名高商の優勝を報じる名古屋新聞（中日新聞社提供）。全てのインニングの経過が細かく記されている。
- 2 当時書かれた決勝戦のスコア（名古屋大学大学文書資料室所蔵）。右側のページには、観客は「多」、試合開始は午後2時4分、終了は午後4時15分と書かれている。
- 3 名高商野球部。戦後、名高商が新制名古屋大学に包括されると、1951年に名高商が廃止されるまで、第八高等学校（旧教養部の前身）等とともに「全名大」チームの一員として大会に出場した。
- 4 医学部の前身である名古屋医科大学（1931～1939）の野球部。1948年に創部された名古屋大学硬式野球部の母体となった。